＜兵庫運河＞

◇諸元等 [1),2)]

兵庫運河は、神戸市兵庫区にある 5 つの運河（兵庫運河・兵庫運河支線・新川運河・苅藻島運河・新湊川運河）の総称であり、日本最大級の規模を誇る。

湊川隧道、島原貯水池とともに、神戸の明治期における三大土木事業の一つと言われている。

名称	位置	延長(m)	幅員(m)	水深(m)	水面積(㎡)
兵庫運河計	神戸市兵庫区、長田区	*6,470*			*337,300*
兵庫運河	兵庫区高松町～南逆瀬川町	1,660	40～130	2.0～2.5	114,500
兵庫運河支線	長田区東尻池町～梅ケ香町	760	15～25	2.0～2.5	5,700
新川運河	兵庫区島上町地先～今出在家町	1,530	25～110	3.5	57,700
苅藻島運河	長田区苅藻島町	2,200	50～140	3.5	150,000
新湊川運河	長田区苅藻通	320	25～45	2.0～2.5	9,400

表－1　各運河の諸元

写真－1　「兵庫運河」上空写真（Google Earth より）

◇沿革と歴史的背景 [1),2),3),4)]

兵庫運河が建設された兵庫港は、古くは行基が開設した大和田泊（おおわだのとまり）として知られ、平清盛が日宋貿易のために兵庫津として整備したのが始まりで、その後室町時代には足利義満の日明貿易の拠点として栄えた。

江戸時代には尼崎藩の所領となり、西国街道も通り陸海の要衝であった当地は、のちに幕府の直轄地となったが、人口 2 万人を超える大都市で、北前船が運搬する物資の集積地として、また朝鮮通信使やオランダ商人の宿泊地でもあった。

写真－2　兵庫運河

明治に入り神戸港に貿易の拠点が移ったが、和田岬が船の難所で船の被害が大きかったことから、兵庫出在家町の豪商・神田兵右衛門によって兵庫運河の築造が計画された。1874 年（明治 7 年）に着工したが工事は難航し、1875 年（明治 8 年）に船舶の避難地として新川運河だけが官民共同事業として完成した。

その後、紆余曲折の末、八尾善四郎等が 1896 年（明治 29 年）に和田岬を迂回するバイパスとして再度着工し、1899 年（明治 32 年）12 月に兵庫運河全体が完成した。

なお、1919 年（大正 8 年）に、神戸市はすべての権利を 63 万円で買収している。

写真－3　新川運河

◇特徴 [1),2),5)]

運河は港湾物流に利用され、周辺は戦前からの大工業地帯で、川崎重工、三菱造船、カネボウなどの大工場が建設された。また戦後は貯木場として活用され環境汚染も引き起こしたが、その後原木の輸入が無くなり、2005 年（平成 17 年）に貯木場が廃止された。

現在では開削当初の目的から大きく転換を図り、貴重な水辺空間として、プロムナードやライトアップの整備が行われ、市民に憩いの場として活用されている。

写真－4　昭和の貯木場 [1)]

◇文化的価値 [1),2),4),5)]

兵庫運河は、明治より戦後まで兵庫の経済発展や工業化を支え、その後は市民のための親水空間として有効に活用され、明治における民間活力を生かした巨大な土木事業の一つであり、その文化的価値は高い。

神戸市では貴重な近代土木遺産として高く評価し、兵庫区内の歴史的遺産のネットワーク化を図る「兵庫区歴史花回道構想」の一つとして紹介している。

また周辺には、1924 年（大正 13 年）に竣工した、美しい 3 連コンクリートアーチ橋の大輪田橋や高潮対策で作られた水門など、土木遺産も多く、2022 年（令和 4 年）には、近接地に初代県庁舎を復元した兵庫県立兵庫津ミュージアムが建設され、兵庫運河は生きた土木遺産として、ますます市民に親しまれていくものと思われる。

写真－5　大輪田橋と大輪田水門

◇参考文献

1)　神戸市：ホームページ「兵庫運河の今昔物語」、
https://www.city.kobe.lg.jp/a74227/kurashi/activate/ungakasseka/ungaimamukasi/index.html

2)　神戸市兵庫区役所：近代土木遺産兵庫運河、2014.3
https://www.city.kobe.lg.jp/documents/6457/unnga.pdf

3)　ウィキペディア（Wikipedia）：兵庫運河

4)　兵庫県立兵庫津ミュージアム：ブログ「兵庫津ってなんだ」
https://hyogo-no-tsu.jp/blog/blog-1/

5)　ブログ「大輪田橋・兵庫津散歩」https://hirukarasanpo.blog.fc2.com/blog-entry-377.html

（文責：南荘　淳）